

篠崎公園地区まちづくりにおける補助第288号線ボックスカルバートの見直し
を求める陳情

(建設委員会付託)

受 理 番 号 第 9 8 号

受理年月日 令和3年9月15日

付託年月日 令和3年9月28日

陳 情 者 ・ ・ ・ ・ ・
 ・ ・ ・ ・ ・

陳 情 原 文 篠崎公園地区まちづくりにおいては、補助第288号線の整備を江戸川と並行する区間で公園機能と道路機能を両立させるとして、篠崎公園の地下にボックスカルバートを設置する設計となっています。また、堤防部分は計画規模を超える超過洪水に対する対策として高規格堤防を整備する計画です。

しかし、近年の大規模水害発生を背景に、国では流域治水、国と東京都では高台まちづくりを掲げ、水害に対する防御の体制に大きな変革が訪れています。この流域治水への転換、「高台まちづくり」の中で、江戸川堤防に並行する道路は、想定される浸水深よりも高い位置にある道路として、避難生活水準を確保するために江戸川区にとって非常に重要な役割を担うべき位置付けにあると考えられます。更には、補助第286号線に接続した都県橋を通じて浸水区域外への避難を可能とするための堤防沿いの道路の確保はことさらに重要であると考えられます。

そうすると、現在予定されている補助第288号線の現況堤防に並行する部分をボックスカルバートにしてしまうと、江戸川堤防に並行する道路が担うべき重要な機能が失われてしまうのではないのでしょうか。流域治水、高台まちづくりに鑑みて、ボックスカルバートをやめて、想定される浸水深よりも高い位置にある道路として整備するようにすべきではないのでしょうか。その他にも以下の不具合な点があります。

① 計画規模の洪水浸水でもボックスカルバートの路面は水没してしまいます。基本協定書に記載されている断面図を見ると、ボックスカルバートの路面は裏小段に設置されている現況の道路面より低く、現況地盤高さに近くなっています。小松川第一トンネルはリスク管理対策をしているものの平成28年8月2日の集中豪雨で冠水していますし、小松川第二トンネルは縦断勾配を一定にしていますが、道路面の高さは近隣地盤面より低くなっています。これでは計画規模の洪水でも路面は水没することになります。想定最大規模の洪水ではより深く水没します。

② 篠崎公園地区に隣接する上流部、下流部でも江戸川区構想に従い、高規格堤防

(裏面に続く)

を整備しようとする、現況堤防に沿っている道路にもボックスカルバートを設置することが必要になってしまいます。公園部分の道路を立体都市計画により公園と道路の両方の機能が果たせるようにしたとすると、まちと川が面的につながる良好な都市空間を創出するという高規格堤防の川裏法面の機能との両立を果たすためには、上流部、下流部でも立体都市計画を採用することが必要になってしまいます。

③ ボックスカルバートは高規格堤防を土堤とする「土堤原則」に反しています。ボックスカルバートが浮力・抵抗・耐震性を考慮して設計されていても、「土堤原則」に相いれないことには変わりはありません。

④ ボックスカルバートは地表面の道路よりも建設費用、維持管理費用ともに高額であると思われます。

これらのことから、流域治水や高台まちづくりに鑑みて、下記のとおり陳情いたします。

記

篠崎公園地区まちづくりにおける補助第288号線ボックスカルバートをやめて、その路面を篠崎公園高台と同じ高さで整備することを求めます。